

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる—「人間性」を求める—

大会特集号
11・12月
合併号

令和5年 No.1341

大会宣言

新型コロナウイルス感染の拡大は、子供たちの学びに多くの危機をもたらす一方で、オンライン教育やAI等を活用した学習教材など、デジタル化がもたらす学びにおける可能性を示す機会となつた。また、学校のもつ福祉的機能や、教師と子供が関わり合いながら学び成長するこの価値、あるいは社会体験や自然体験といったオンラインでは経験し得ないリアルな体験のもの価値を再認識する契機ともなつていて。

現在では、人口減少や高齢化、デジタルトランスフォーメーション、グローバル化や多極化が進むとともに、新たな技術革新のもとで地球環境問題もさまざまなか形で起こっている。今後、先行きが不透明な状況はますます加速し、予測困難な社会が形成されることが予想される。これからは、子供たちが、持続可能な社会の担い手として、自らの力で未来を切り拓きつくり上げていくことがなお三層

求められる時代となるであろう。

そのような次代を切り拓く子供たちには、新学習指導要領が示しているように、「主体的・対話的で深い学び」を通じた授業改革や「社会に開かれた教育課程」の実現により、子供たちが自ら考え主体的に行動して新たな価値を創造する力、責任ある行動を取ることができる力を育む必要がある。また、そのような力を最大限引き出すためには、他者への共感や寛容性、更には多様性を尊重する態度や人間関係を築く力も必要となる。

こうした状況を踏まえ、日本連合教育会は、ここ明治維新胎動の地山口において、第74回日本連合教育会研究大会を開催し、「時代の変化を前向きに捉え志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」を大会主題に掲げ、全国各地の貴重な教育実践を基に協議を重ねてきた。ここに、参加した会員の総意をもつて次の事項を決議し、その実現を期するものである。

— 我が国の伝統や文化を尊重し、郷土を愛する態度を養い、豊かな創造力と人間性をもつて国際社会の平和と発展に貢献できる日本人を育成する。

— 「主体的・対話的で深い学び」を通じて、いかなる変化も冷静に捉え、他者と協働して解決できる資質・能力を養う。

— 自他の生命及び人権を尊重し、ものごとの真理の追究や積極的な社会参画等を果たすことができる豊かな人間性を養い、心身共に健やかでたくましく生きる力を育む教育を推進する。

— 子供たちの発達特性や教育的ニーズを踏まえ、個々に応じたきめ細かい指導や支援を行い、自立と社会参画を促す教育を推進する。

— 学校・家庭・地域社会がもつ人づくりや地域づくりの好循環を高め、地域ぐるみで子供たちを見守り育てる環境づくりの創出に努める。



第74回日本連合教育会研究大会山口大会 第50回山口県教育県民大会

■大会主題

■記念講演

東京2020パラリンピック
女子マラソン金メダリスト
道下 美里 様

■開会式・全体会・アトラクション

■第1分科会 学習指導

■第2分科会 教育課程

■第3分科会 道徳教育

■第4分科会 生徒指導

■第5分科会 特別支援教育

■第6分科会 人権教育

■第7分科会 健康・安全教育

■第8分科会 外国語教育

■第9分科会 幼児教育

■第10分科会 学校・家庭・地域の連携

■青年教師の会・理事会

■アンケート

■次年度開催地挨拶・大会を振り返って

愛媛県教育会
愛媛大会実行委員長 藤原 雅彦

山口県教育会
山口大会副実行委員長 中村 哲夫

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない美しいやまぐち

令和5年8月18日
第74回日本連合教育会研究大会

山口大会

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：重枝謙二



時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する

日本人の育成

【大会主題設定の趣旨】

日本連合教育会は、昭和24年発足以来、常に日本の教育振興刷新を図るとともに世界の平和と人類の福祉に貢献できる日本人の育成をめざし、日々教育実践に努め研究大会を開催している。

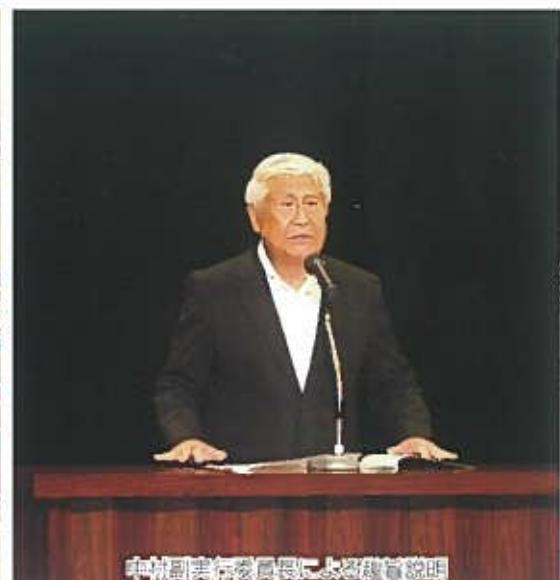
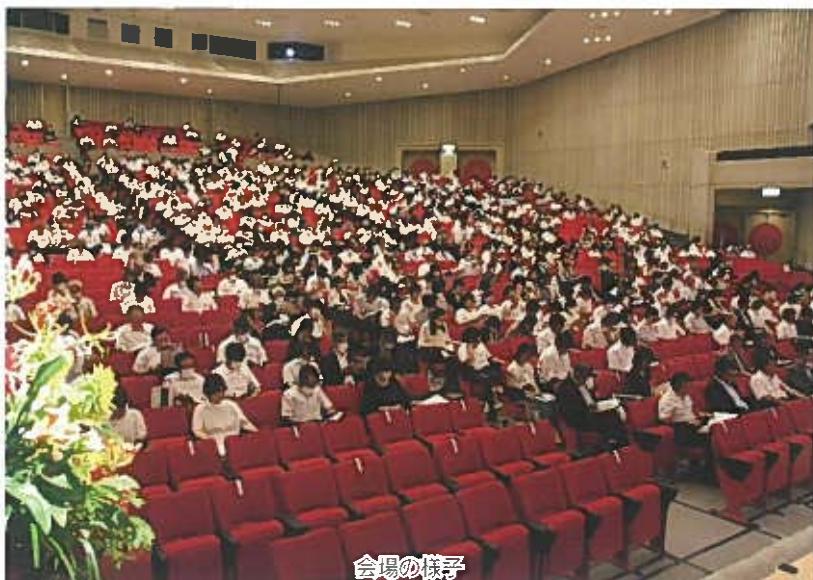
2020年代、知識・情報・技術をめぐる変化が一層加速化し、情報化やグローバル化に代表される社会変化が人間の予測を超えて進展し続いている。とりわけ人工知能をはじめとする情報革新や科学技術の進歩は、私たちに生活の便利さや豊かさをもたらす反面、その営みは高度に産業化され、地球環境に影響を及ぼすほどの大規模な変化を誘発している。同時に、私たちは、今後ますます進む超少子高齢化社会、知識盤社会、また気候変動や防災危機管理等が複雑に絡み合う中で生まれる多様な変化に立ち向かわなくてはならない。加えて、世界各国における新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大という人類にとって未曾有の危機を経験し、その拡大防止と社会生活の両立に向けた新しい生活様式や学校教育における学びへの大きな変革が求められている。

このようなかつて、令和4年度は高等学校においても新教育課程の学年進行による実施が始まり、我が国の学校教育がめざす社会に開かれた教育課程が全校種で共存化された。ここで育む力は、激しく変化する時代にあって、まさに人が人として正しく考え方、判断し豊か

に生きるために必要な力であり、未来を力強く生き抜くための知恵である。

これからの日本人が予測困難な未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人ひとりが自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。とりわけ未来を創造する子供たちには、理想とする目標を高く掲げ、変化の中で、できないことよりもできることに目を向けて可能性を見定めてほしい。そして、実現に向かう道筋を柔軟に選択し、他者との協働もいとわず自らの知恵を遺憾なく生かし、未来を着実に切り拓いていく力を身に付けて成長してほしいと願っている。

古くから各時代において伝統文化の華を咲かせた山口県は、「新進気鋭の志」をもつて明治維新という新しい時代を切り拓いた「維新のふるさと」でもある。日本を取り巻く諸外国の事情に通じ、物事を鋭敏に観察し、新たな社会を創造していくなどの先人の気質は、よき風土として継承され、現在も山口県教育の振興に息づいている。先行き不透明で予測が困難な現代において、時代を読み、明るい未来に向けて志高く新たな社会の創造主となる子供の姿を求め、大会主題を「時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」とした。





講師 東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト 道下 美里 様

チームでつかんだ金メダル

私は下関市唐戸に生まれました。大人しくて引っ込み思案で、母親の後ろにちょっと隠れて、あいさつは余計だけみみたいな子でした。そんな私の右目に初めて異変が見つかったのは、小学4年生の頃でした。その後、視力は徐々



お話をされる道下さん

2 私自身の生き立ち

三井住友海上のブラインドマラソンの道下美里と申します。本日は、私の東京2020パラリンピックまでの取組や仲間との関わりなどを紹介しながら、仲間と目標を達成するために、自身が心掛けていたこと、そしてチームが大切にしてきたことをお話しできればと思っております。

1 はじめに

- 1 はじめに
- 2 私自身の生き立ち
- 3 伴走者との出会い
- 4 金メダル獲得までの軌跡
- 5 今後の目標と皆さんへのメッセージ

日本人の育成

それは杞憂に過ぎず、むしろ自分と同じ境遇の仲間に盲学校で出会えたことで、どれだけ勇気をもったかわかりません。その場において、自分はどんなサポートが必要なのか、それをうまく伝えることができず、大事な親友との関係もギクシャクしたこともあります。でも、盲学校の仲間から学ぶ中でそういうことについて克服できたことが多くあり、人間関係で悩むこともなくなつたように思います。

盲学校で走り始めたきっかけというのは、実は、ダッシュです。当時の体育の先生から「大会があるから出てみないか」と誘われたのがきっかけで陸上を始めました。初めて大会に出場した時には、50代の女性に私は負けたのです。それが悔しくて、目標をもつて練習に臨むようになり、頑張ってその目標をクリアしてしまつたのです。完全に光を失つたわけではありませんが、一人で外出することも難しくなりました。数年後、これが遺伝性の疾患と判明し、遅かれ早かれ発症したであろうことが分かつたのですが、当時は、自身のやるせない感情が溢れ、「こんな目になつたのはお母さんのせい」と、随分ひどく当たつたこともあります。当時は未来に希望を描くこともできず、自分が生きている意味、価値、役割は何だろうと一人自問自答する日々が続きました。

塞いでいた私の心が開いていく転機になつたのは23歳のころ、偶然聞いた母と友人の会話でした。「娘さんの目が不自由で、大変なこともあるんじやない」そんな言葉に、母は優しくこう答えてくれました。「全然、大変だと思ったことはないけどね」、いつも泣き言を言わない母の言葉に「はつ」としました。母の言葉を聞いて、母のために何か喜ぶことをして母の笑顔を見たい。この日をきっかけに、母の勧める盲学校に行つてみようと思い始めました。そして、盲学校に入学したのですが、当初は不安でいっぱいでした。でも





た時の達成感は、それまでにないほどの喜びを私に与えてくれて、周りの方も喜んでくれました。それがすごく嬉しくてトライし始めました。障害のある私が走るために周囲の協力無くしてできません。例えば、例え、外に出ればガイドランナーさんがいなくては走ることができませんし、当時は大会の中込書を書くことも読むことも大会の会場までの移動もどうしていいかわからりませんでした。そんな中、不安に思うことを察して声をかけて親身にサポートしてくださいたのが支援学校の先生である安田先生です。「この先生のために頑張りたい」と思える先生に出会えて、とにかく練習がめちゃくちゃ楽しかった。だからどんなときも続けられたらし、結果にもつながっていったのだと思います。

最初は、2008年、下関海峡マラソンに初めて出場した時です。当時は「伴走者っていうのにどうやつたら巡り会えるのだろう」という感じでした。私は必死になって海峡マラソンを走りたいということを伝えました。すると、ある方から「知り合いが県庁陸上部のキャブテンをされているから、もしかしたらできるかも」と言つてくださいて伴走者が決まりました。それ以外の伴走者は安田先生が探してくださいました。学校に若い先生が赴任して来たら、「マラソン一緒に走るか」と声をかけてくださいて、みんな伴走者になりました。4人の伴走者にリレーしていただき、安全第一を優先に走り、無事完走しました。

次は、2014年、ロンドンマラソンに出場したときです。視覚障害者の女子マラソンの世界大会が初めて開催されました。ヨーロッパでのレースなので、遠征にも最低5日間かかります。公式のルールで二人の伴走者が必要で、結果が期待される舞台なので、私よりも走力があり、家族や職場の理解が得られる人を探さなければいけません。練習仲間に相談したところ、歯科医の樋口先生がすぐに名乗りを上げてくださいました。ですが、あと一人はどうしても見つからず、大濠公園ブラインドランナーズクラブの仲間に相談したら、「じゃあ、私が探してあげよう」と言って下さり、私も「世界大会に行ける。こんなチャンスめったにないです。女子マラソンの世界大会が初めてなので、ここで結果を出すことで、もしかしたらパラリンピックにつながるかもしれない。女子にも平等に夢を見る機会を与えて欲しいです」という思いを訴えて、捜していだき、堀内典孝君に白羽の矢が立ちました。クラブの方々が堀内君に相談している中で、「もし職場の理解を得られないのであれば、職場と一緒に行つて上司に相談させてくれ」と言って下さり、その熱意に堀内君が胸を打たれて「俺でよければ」と急遽、パワーポイントまで取つてくださつて3人での遠征が決定しました。

3 伴走者との出会い
私の走ることを支えてくださつています伴走者との出会いについてお話をします。

最初は、2008年、下関海峡マラソンに初めて出場した時です。当時は「伴走者っていうのにどうやつたら巡り会えるのだろう」という感じでした。私は必死になって海峡マラソンを走りたいということを伝えました。すると、ある方から「知り合いが県庁陸上部のキャブテンをされているから、もしかしたらできるかも」と言つてくださいて伴走者が決まりました。それ以外の伴走者は安田先生が探してくださいました。学校に若い先生が赴任して来たら、「マラソンと一緒に走るか」と声をかけてくださいて、みんな伴走者になりました。4人の伴走者にリレーしていただき、安全第一を優先に走り、無事完走しました。

次は、2014年、ロンドンマラソンに出場したときです。視覚障害者の女子マラソンの世界大会が初めて開催されました。ヨーロッパでのレースなので、遠征にも最低5日間かかります。公式のルールで二人の伴走者が必要で、結果が期待される舞台なので、私よりも走力があり、家族や職場の理解が得られる人を探さなければいけません。練習仲間に相談したところ、歯科医の樋口先生がすぐに名乗りを上げてくださいました。ですが、あと一人はどうしても見つからず、大濠公園ブラインドランナーズクラブの仲間に相談したら、「じゃあ、私が探してあげよう」と言って下さり、私も「世界大会に行ける。こんなチャンスめったにないです。女子マラソンの世界大会が初めてなので、ここで結果を出すことで、もしかしたらパラリンピックにつながるかもしれない。女子にも平等に夢を見る機会を与えて欲しいです」という思いを訴えて、捜していだき、堀内典孝君に白羽の矢が立ちました。クラブの方々が堀内君に相談している中で、「もし職場の理解を得られないのであれば、職場と一緒に行つて上司に相談させてくれ」と言って下さり、その熱意に堀内君が胸を打たれて「俺でよければ」と急遽、パワーポイントまで取つてくださつて3人での遠征が決定しました。

その時に発足したのが、チーム道下です。私たち3人が、この遠征にかかる想いをクランディングに書いて、それを書いて、それで遠征費を集めることを、プライベートランナーズクラブの仲間がしてくださいました。本気の想いが本気の仲間を引き寄せる実感した大会となりました。応援してくれる方とともに、初めての海外遠征で銀メダルを獲得することができて、大きな自信をつけたレースとなりました。

三つ目は、2016年、リオパラリンピックです。ロンドンで、銀、銅と二大会でメダルを獲得したこと、リオへの出場が決まりましたが、今度は3週間に渡る長い遠征になります。ですから、生活面でのサポートも含めて女性のガイドランナーが必要だろうということと、青山由香さんに白羽の矢が立ちました。当時、大きな大会に出ると選手の身長とか体重とか大会の記録などの情報が雑誌などに載っていました。私の身長に近い人で、速い人が望ましいので、「日本には青山さんしかいない」という感じで、日本ブラインドマラソン協会のコーチをされている方が、彼女とコネクトしてくださいり、一緒に挑戦することになりました。初めてのパラリンピックでは、想定以上の暑さで思うような走りができず、失速するような走りをしてしまいました。ゴールした瞬間は、メダルを獲得できた安堵感でいっぱいでしたが、表彰台でスペイン国歌を聞いた時は目から悔し涙が溢ってきて、「このまま終われないよね」と、そう思った青山さんと私はレース翌日



から東京大会に向けて走ることを決めました。この3人以外にも、栄養士、アスリートフードマイスター、薬剤師、スポーツアーマリストなどに支えられています。献身的にさまざまな形でサポートしてくださる仲間に恵まれて競技活動を続けています。

4 金メダル獲得までの軌跡

リオ大会は本当に悔しかったです。そこで私たちは練習の成果が本番で出せるように練習のムラをなくそうと考えました。私たちがしてきたのは、数値化できるものはすべて数値化することです。自分の体で何が起きているのか、この条件下でどんな準備をして練習に臨めばいいかということを数値を元に、常に考え続けました。練習後のミーティングでは、伴走仲間と

PDCAツールでプランを立てて実行してチェックしてアクションに移す。練習が何かの理由でこなせなかつた時は「なぜ、こなせなかつたのか」「なぜ、そう思うのか」「次はどうすればこなせるか」とことん考える。こうやってデータを収集して成功体験を積み上げて、再現性を高めていくことを継続してやつていきました。そんな折、コロナで大会が一年延期となり、生活も一変しました。正直気持ちが萎えそうになる時もありました。でも、チームの仲間は決して希望を捨てませんでした。今の状況をどう捉え、どう行動するかが大事だと思います。私は「時間や回数など数値化できる目標をしつかり立てて、できた自分を褒める」そういうことに徹しました。自分がコントロールできることだけに、目を向けて一人で悩まないというのが私のやり方です。固執した価値観に捕らわれず、柔軟に、そして努力の方向性を間違わないよう、定期的に伴走仲間とミーティングを続けていきました。チーム内でのコミュニケーションで意識をしていたのは三つ。一つ目は、前向きな言葉を使うこと。二つ目は相手の良いところを探しながらコミュニケーションをとること。三つ目は些細な事でも感謝を伝え合うことです。

さらに、私が実践をしたのは、普段の練習日誌に自己分析のために自分のことを数値化して可視化するこ

とでした。具体的には、睡眠、疲労度、筋肉痛、ストレス、モチベーションの項目をそれぞれ6段階で毎日評価し続けました。毎日、この数値の横に良くても悪くても、その理由をメモで残していました。振り返ってそれを見た時に自分の陥りやすいパターンというものがあることに気づきました。そうやって記録して意識的に行動するようになってからは、自身の調整力もというものが増して、練習でも大会でも安定して結果を出し続けられるようになりました。今振り返ってみれば、リオ大会からの5年間は関わっている仲間一人ひとりが金メダルを取るために、今の環境下で何ができるかを考えて行動し続けていたように思います。

5 今後の目標と皆さんへのメッセージ

私はどんな困難も仲間と対話しながら進めてきました。しかし、見えないことを言い訳にしているうちはいい仲間に恵まれません。ときドラマの主人公になつたかのように逆境を楽しむくらいの気持ちで、どんな変化にも柔軟に対応しながら、仲間一人ひとり、金メダルの先に誰もが活躍できる未来を想像し続けることが、東京2020パラリンピックでの金メダルという成果に繋がったのだと思います。

そして、私はまだまだ強くなれるとスピード強化に努め、昨年夏は50000mの日本記録を45歳で更新し、順調に練習を重ねていたのですけれど、股関節を痛め、今までにない苦しい時間もありました。しかし、長い目で見れば良い休養であり、必ず復活できると信じ続けてくれた仲間がいたので、リハビリ期間も腐らずに練習を継続することができました。そして、4月に開催された霞ヶ浦マラソンで久々にフルマラソンに復帰し、予定通りのペースで走れました。

次は北海道マラソンで、日本人トップで優勝し、夏マラソンで強いということをしつかりアピールをして、2024年のパリのパラリンピック大会のスタートラインに笑顔で立てるように、防府マラソンで自身の世界記録を更新できる走りをしたいなと思っています。そんな風に仲間と一緒に大会に向けて準備をして行きたいと思っています。

最後に、皆さんもそれぞれの環境下で、今、仲間とともに目標に向かい、日々邁進されていることだと思います。常に頑張り続けるのはとても難しいことかも知れませんが、自分を信じ、仲間を信じ、可能性を感じ続けることで、無限に可能性は広がっていくと私は経験を通して確信しています。いつになつても好奇心を絶やさず、自分だからできること、自分にしかできないことを追い求めながら、自分の未来をさらに輝かせていてください。またの再会を楽しみにしております。本日は長い時間、私にお付き合いいただきまして、ありがとうございました。



花束の贈呈

開会式・全体会・アトラクション



大会会長
徳島県教育会理事長
佐藤 利弘

主催者あいさつ



来賓祝辞
山口県知事
村岡 嗣政 様



来賓祝辞
文部科学大臣代理
文部科学省初等中等教育局長
矢野 和彦 様



大会実行委員長
山口県教育会会长
倉増 誠彦



来賓祝辞
山口市長
伊藤 和貴 様



来賓祝辞
山口県議會議長
柳居 俊学 様



大会宣言
前原 隆志



大会主題趣旨説明
中村 哲夫



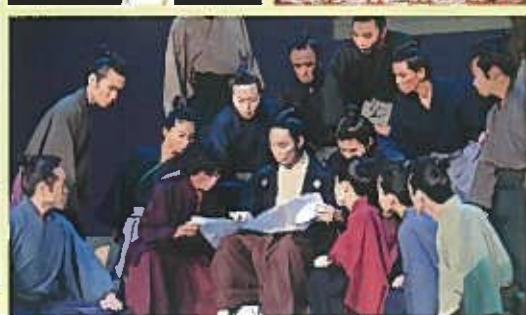
議長 田中 邦明

全体会

9:40 ~ 10:10



田中議長の進行により、
会務報告、大会主題設定の
趣旨説明、大会宣言（案）
のご審議をいただき、皆様
にご承認いただきました。

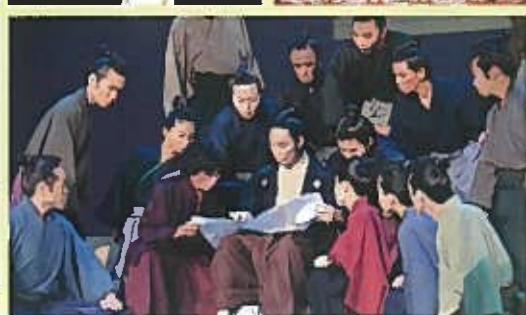


開会式・全体会・アトラクション

日時 8月18日（金）9時から

会場 山口市民会館

田中議長の進行により、
会務報告、大会主題設定の
趣旨説明、大会宣言（案）
のご審議をいただき、皆様
にご承認いただきました。



アトラクション

「SHOW-IN～若き志士たち～」特別バージョン

11:40 ~ 12:20

山口市、萩市を拠点に県内外で活躍中のS.RやまぐちSHOWINユニットの皆さんによる維新劇・創作ミュージカルをお楽しみいただきました。今回、7歳から60代までの幅広い年齢層 42名による公演でした。

第1分科会 学習指導

協議題 ICT機器の効果的な活用と

「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善

提案 助言 山口大学教育学部教職大学院 准教授 足立 直之 様
 ①滋賀県教育会 ②山口県教育会 ③山口県教育会

提案の要旨

滋賀県教育会

大津市立瀬田北小学校の前校長山元千恵子先生と北尾卓也先生の提案発表は、6年生177人（5クラス）の運動会での実践でした。旗を使った演技を自分たちで考えさせるという取組で、ネットワーク上にコマ割り表や動きの参考になる動画を載せたり、夏休み中にタブレットで担当児童の考えを共有できるようにしたり、自分の動きを撮影して確認させたり、ICTを効果的に使った実践を発表していました。



瀬田北小の提案の様子

創造について行されました。子供たちがもつている理科に対する素朴概念や先入観を、少しでも科学的な概念にもつていきたいという考え方で授業を創つてみました。小5の「導線を巻く量と電磁石の強さとの関係」の授業において、理科の「見方・考え方を働かせる」ことを自覚化させる手立てについて、ICTを使つた実践や、教師の働きかけなどについて具体的に示していました。実験結果のグラフをスプレットシート

に記入させることでより多くの結果をより速くより正確に集めることができること、そして結果をもとに考察する時間が充実するなどの例がわかりやすく示されました。

③山口県教育会

防府市立右田中学校の松田祥奈先生には、学校の研究主題「自律した学習者」の育成について提案していました。(1)自分

(2)山口県教育会
 山口大学教育学部附属山口小学校の津守成思先生の提案発表は、「資質・能力を豊かに育む探究的な学びの大変である」ということでした。

②山口県教育会

山口大学教育学部附属山口小学校の津守成思先生の提案発表は、「資質・能力を豊かに育む探究的な学びの大変である」ということでした。

協議の概要

各グループ、非常に熱心な協議が行われ、休憩時間もあちこちで話し合う姿が見られました。三つの提案発表に対して前向きな発言が続き、自分の校種や学校ならばどのように取り入れられるかという話し合いがありました。

指導助言の概要

山口大学教育学部教職大学院准教授の足立直之先生から指導助言をいただきました。三つの実践発表について、「どの実践も本質的なところに迫っていた」とし、「ICTの便利さは、教師が考えるものと子供が考えるものが違う」という点について、「子供にとっての便利さは楽だ」ということ、教師にとっての便利さは使うことは時間が生まれるが、そこで削ぎ落したもの、削ぎ落したままいいのかということ、についてよく考える必要がある」とご教授いたしました。



考え・予想の表明（ロイロノートを使い短時間で全員分がわかる）②実験を撮る（見返すことができる）③結果の共有の三つの場面でのICTの活用が示されました。「自ら課題を見出し、学び続ける生徒、問い合わせ点化として、「めあて」の工夫、板書データの共有や蓄積の取組も紹介されました。



附属山口小の提案の様子



全体発表の様子

第2分科会 教育課程

協議題 「令和の日本型学校教育」の構築をめざす教育課程の編成

提案案 ①信濃教育会 ②山口県教育会
指導助言 山口大学教育学部教職大学院 教授（特命） 松田 靖 様

提案の要旨
①信濃教育会

「全ての子どもが自分【らしく】生きることができる学校づくり」というテーマで長野県塩尻市立片丘小学校の山本直佳校長先生がご提案されました。具体的な取組として、①子供が自分の「らしさ」に気付き、活動する（片丘小の「らしさ」を伝える校長講話など）②職員が個の「らしさ」を捉え、学級・授業づくりに生かす（個を見ることの大切さの共有、多くの目で子供を育てる体制づくりなど）の二つがありました。こうした取組を通じて、「子供が他者から自分の「らしさ」を知り、生かそうとする姿があつたこと」教員が子供の意識に添つた授業・支援を考えようとするようになつたこと」などが挙げられました。

協議の概要

協議では、「【らしさ】は個別最適な学びの象徴であること」「全教職員でカリキュラムの共通理解を繰り返し図ることの重要性」「コミュニケーションのメリットとデメリットの整理」「学校・保護者・地域の方針のズレの解消」などが挙がりました。また、二つのご提案に共通する点として、「教育課程の目標が明確に示され、学校だけでなく、地域や保護者と共にされていること」があり、この点が協議題に迫つていく上で重要であるという指摘が挙がっていました。

指導助言の概要

【社会に開かれた教育課程】の編成・実施（市内各中学校区の小中一貫教育校としての実践）というテーマで美祢市立厚保中学校の西村睦人校長先生がご提案されました。具体的な取組として、①市中学校長会での目標共有と実践、共通成果指標の決定 ②社会に開かれた教育課程の編成・実施（地域協育ネット事務局の公民館への移管、【熟議】の重視など）③小中一貫教育校における校長の働きかけ（児童生徒交流の様子の地域への発信など）④教職員の意識改革と検証改善サイクルの確立の四つがありました。こうした取組の成果として、「各中学校区の小中合同研修会で検討された教育課程を実際に運用しながら検証改善サイク

ルが循環していること」「学校運営協議会における児童生徒主体の【熟議】を通じて、教職員や地域住民・保護者・児童生徒の参画意識が高まっていること」などが挙げられました。

山口大学教育学部教職大学院の松田靖先生の指導助言では、協働による学校組織マネジメントの必要性を説明いただきました。そして、マネジメントの視点として、次の三つが挙げられました。



提案の様子



グループ協議の様子



指導助言の様子

第3分科会 道徳教育

協議題 人として他者とともに

の自己有用感の醸成の工夫、学校での持続可能な道徳の授業の型作り等によってカリキュラム・マネジメントを回していくなどの意見が出ました。

指導助言の概要

指導・助言は山口大学教育学部教職大学院の坂本哲彦先生が行いました。

最初に地域人材の活用（津田小）や価値観の変更による授業観の変更（雨引小、津田小）、单元化しての子供の育成（勝間小）等を例に挙げながら指導と評価の工夫についての指導がありました。



提案の要旨

①茨城県教育会

桜川市立雨引小学校の口町紀子先生が発表しました。パッケージ型ユニットを用いて、主体的・対話的で深い学びの実現をめざしました。さまざまな工夫をしたオリジナル教材を開発し、考え、議論する道徳授業を実践しています。

協議の概要

①

研究協議では、道徳教育の要となる、道徳科の指導と評価の工夫について、②

学校、家庭、地域が協働する道徳教育のカリキュラム・マネジメントの工夫について話し合いました。

②香川県教育会
さぬき市立津田小学校の谷口久美先生が発表しました。地域道徳教育を構想し、児童の実態や保護者・地域の願いの分析、地域資源の見直し等の検討を行いました。地域課題に主体的に関わる活動や地域教材の開発に取り組んでいます。

③山口県教育会

周南市立勝間小学校の山本誠一郎先生が発表しました。自己の変容を実感できる道徳授業をめざした取組で、児童はよりよく成長した姿に近く成長した姿に近づくために、教育活動全体の経験を自身の成長に生かそうとする意識が芽生えました。



提案の様子

①では、めざす子供像の共有など全教員が自分事として道徳を捉えること、めざすゴールが難しいが学習指導要領に沿って話すことが、指導が学習指導要領に沿うのかを明確化すること、教材研究でいながら何に焦点化するのかを明確化することは発問を共有していくことの重要性が話されました。

②では、道徳ノートの持ち帰り等を通しての家庭との連携や地域人材の授業活用等による児童生徒



げながら指導と評価の工夫についての指導がありました。次に授業をつくる際には「焦点化」「視覚化」「共有化」「身体表現化」を意識して、良い発問を準備することと、発問のタイミングや出し方が教師の腕の見せ所との話がありました。また、評価については伴奏的に評価することがポイントで看取るべきポイントについての示唆があり、「評価」とは「よい解説」をすることであると締めくくられました。

カリキュラム・マネジメントについては「学校の特色」を生かすこと、人的・物的資源・体制を構築すること、「横断的な視点」をもつこと、「PDCA」を継続し、授業から学校運営全体までをマネジメントすることで教育活動の質の向上を図れることでした。道徳科では、計画カリキュラムと実施カリキュラムを分けて考え、別葉の作成等で各教科、領域と関連付け、全体計画を作成していくこととした。学校運営では、学校運営会への生徒の参画が主流になってきていましたが、協議内容をどう反映させていくのかを課題となっていました。



司会者



提 案

①茨城県教育会 ②香川県教育会 ③山口県教育会

坂本 哲彦 様

指導助言

山口大学教育学部教職大学院 教授(特命) 坂本 哲彦 様

指導助言

坂本 哲彦 様

指導助言

坂本 哲彦 様

第4分科会 生徒指導

協議題 「チーム学校」で取り組む生徒指導の推進

提 案 ①呉市教育会

指導助言 山口県教育庁 学校安全・体育課 教育調整監 松田 真之介 様

②山口県教育会

提案の要旨 ①呉市教育会

近年 不登校の児童生徒数が増加するなか、チーム学校として組織的に対応することが重要であるとして、

広島県呉市立吉浦中学校の河本英希校長先生が提案されました。

組織体制の構築では「生徒支援会議を位置づけ、教育相談COが相談・支援の調整を行うことで、生徒の状況を把握し、支援を検討できる体制を作ったこと」、また、スペシャルサポートルーム（SSR）を活用した支援では「SSRを設置し、教育相談COが常駐することでの学校に来ることができない生徒やクラスに入りにくい生徒に対応していること」の説明があります。

②山口県教育会

周南市立岐陽中学校の西村康隆先生が提案されました。子供たちが「常に学校とつながっている」という安心感の中で生活することが、「自己指導力の育成」につながると考え、毎日、生徒指導日報を作成し、前日に起こった生徒指導事案などを共有していくこと、生徒指導委



員会及び教育相談会を日課表に位置づけ週に一度、情報共有ができるようにしていることの説明がありました。

その他、別室登校やオンライン授業連携などをを行い、不登校対応や、組織として機能する校内生徒指導体制を構築していると話されました。

協議の概要

グループ協議では、「SSRの取組について、生徒の教室復帰をめざすのか、生徒の安定をめざしてSSRで3年間を過ごすのか、どこを目標にするべきかを考えさせられた」「限られた人員での体制のなか、人員や労力を考え、情報共有を行い、学校として一つのベクトルをもつことが重要である」

周南市立岐陽中学校で行われている生徒指導日報は情報共有するだけでなく、教員間での指導観を共有することにもなり、有効であると思います。こうした取組が組織として機能する校内生徒指導体制の確立になっていくものと考えます。

教員間で生徒の実態に応じた目標設定ができるよう協議することが大切です。

また、周南市立岐陽中学校で行われている生徒指導日報は情報共有するだけではなく、教員間での指導観を共有することにもなり、有効であると思います。こうした取組が組織として機能する校内生徒指導体制の確立になっていくものと考えます。

においては、校内だけでなく児童相談所やSC、SSWなどの関連機関との情報共有が重要です。また、従来の連携だけでなく、外部機関を招いての会議や定期的な生徒の実態把握と共有を行うことが重要と考えます。小学校教員が参加することで、中一ギャップへの対策にもなるのではないでしょうか。

わることがあるので、コミュニケーション・スクールについては、管理職が窓口となるのがよいのではないか」とどの意見が出されました。

指導助言の概要

山口県教育庁学校安全・体育課の松田真之介教育調整監から指導助言がありました。

不登校やSNSでの問題、広汎性発達障害など、生徒指導における生徒の課題は多様化しており、教師の懸命な努力をもつとしても、必ずしも生徒の課題を解決できるとは限りません。そこで、チーム学校での組織的な対応、関連機関との連携が重要で、不登校の児童生徒が増加するなか、呉市立吉浦中学校の行っているSSRの取組は先進的なもので有効であると思います。山口県ではこれを参考にしてステップアップルームの取組を今年度から開始したところです。SSRの目標設定の協議もありましたが、教育相談COやSCなどの専門家の意見も踏まえつつ、教員間で生徒の実態に応じた目標設定ができるよう協議することが大切です。



第5分科会 特別支援教育

協議題 生きる力を共に高め合う特別支援教育の推進

提案案 ①富山県教育会 ②山口県教育会 指導助言 山口大学教育学部教職大学院 准教授 宮木 秀雄 様

提案の要旨

①富山県教育会

富山市立堀川小学校の伊東真利子先生が「自発的で主体的な取組を大切にすることで、自立と社会参加に必要な力を身に付けていく子供の育成」をテーマに提案されました。Y女児の3年間の「生活単元学習」における学習の歩みを基に発表されました。

1年目・「子ウサギとなかよし」

子ウサギのお世話を通じて、仲間とコミュニケーションをとることや、「自分」「子ウサギ」「仲間」と三方のことを考え行動することができるようになります。

2年目・「3組 なかよしむら」

素直な気持ちを発言や態度、動きで表わす活動を行なうことを考え方で表現する力が付きました。

3年間の実践を通して、自立と社会参加に必要な「心の拠り所となる興味・関心」「自分と他者の関係を築く力」を身に付けました。



提案①の様子

②山口県教育会

宇部市立西宇部小学校の関本清子先生が「連続性がある多様な学びの場としての通級指導教室の在り方」をテーマに発表されました。

四つの実践事例を紹介していただきました。事例①「計算」

筆算の位取りなどに課題がある児童には、数字を書く位置がわかりやすいプリントを活用しました。



提案②の様子

山口大学教育学部教職大学院の宮木秀雄先生が指導助言されました。以下、助言内容の一部です。

伊東先生は、記録に基づいて客観的に子供を評価することを徹底されており素晴らしいです。それにより、子供の興味に沿った単元設定をすることができます。また、児童自身が学習内容や方法を選択・決定しており、主体的な学びにつながっていると思います。

関本先生の実践のポイントは、「選択肢」だと思いました。教材が豊富でした。児童が自分に合った学び方を選択できる環境づくりの大切さを教えていただきました。さらに、通級での支援を通常学級でも行えるよう連携していることも素晴らしいと思いました。

お二人の共通点は、「自己選択」「自己決定」の日常化です。この日常化を通常学級でも行うことでインクルーシブ教育により近づけるのだと思います。

指導助言の概要

視点①「一人ひとりの子供の困難さに応じたきめ細かな指導の在り方」では、児童の実態を把握した上で、目標や内容を設定していくことが大切であるという意見が挙げられました。

視点②「共に尊重し合いながら協働して生活する態度を育む交流及び共同学習の取組」では、学級担任と連携して児童を支援すること、児童間で他己評価を行うことが大切であるという意見が挙げられました。



指導助言の様子

事例③「読み書き」

特殊音節の読み書きに課題がある児童には、視覚、聴覚、動作など複数の感覚を組み合わせ指導します。また、タブレットのアプリを用いて言葉を探したり書いたりしました。

事例④「集団への参加」

読解に課題がある児童には、挿絵と文章を対応させたり、ディジタル教科書を活用したりしました。

事例⑤「集団への参加」

集団活動に不安がある児童には、カレンダーに行事予定を書き事前に相談したり、担任や保護者に知らせ、応援してもらったりしました。

第6分科会 人権教育

協議題 人間尊重の精神に立った人権教育の推進

提 案 山口県教育厅人権教育課 指導助言 山口県教育会

① 栃木県連合教育会

② 山口県教育会

藤本 真也 様

山口県教育厅人権教育課の藤本真也教育調整監から指導助言がありました。

地域の方に褒めてもらうことで自尊感情や自己肯定感も高まり、自分のよさを語れる子の育成につながります。体験を通して人権感覚のスイッチを入れることもできます。公民館がハブ的に機能することで継続性も期待できます。

提案の要旨

① 栃木県連合教育会

栃木県さくら市立喜連川小学校の地神伸子先生が、「一人一人が尊重され、心豊かな児童の育成をめざす人権教育」をテーマに提案されました。校内に人権教育推進委員会を設け、学級経営部、授業研究部、調査啓発部の三つの部会に分かれて研究・実践を進められました。児童同士の伝え合いや学び合いの充実、人権侵害の未然防止、教職員の人権意識の高まり、道徳の授業力の向上などの成果が見られました。

② 山口県教育会

萩市教育委員会の森田憲明指導主事は、「大人力である人と「あさひ」大好き子を育てる人権教育の推進」と題して、一貫性・連続性・系統性・考える力・かかる力・表現する力を意識した取組によつて、人と人との新しいつながりが生まれ、相手



提案の様子

の立場についても考える機会をつくることができ、学校教育だけでなく、社会教育の視点からも充実させることができました。「人間関係を広げていくことが人権感覚を養っていく上で必要不可欠です」と発表されました。

協議の概要

① 人間尊重の精神の深化を図るカリキュラムの在り方

人間尊重の精神は全ての教育活動の礎になるので、学校全体で常に人権を意識して組織的・意図的に年間を通して取り組むことやアンケート等を活用して数値化し、見える化を図ることで成果が上がります。また、9年間を見据えた

中学校区での取組を共有・実践し、教員の意識を高めていくことも大切です。

② 他教科との関連

や地域や家庭との連携を通して人間尊重の精神を育む人権教育の在り方

地域・家庭と連携して技や文化を継承することで地域のよさを知り、



全体発表の様子

学校において人権教育を組織的・計画的に推進するため、校内の推進体制の充実と、家庭、地域社会等との連携が大切になります。学校としての人権教育推進の基本的な考え方や方向性についての共通理解を図ること、各学年・各学級・各教科等の役割を明確にすること、基本的人権の理念や個別の

人権課題との関連、他教科との関連がわかるよう工夫を行うこと等、より効率的・効果的な取組となるよう配慮しながら進め



指導助言の様子

山口県教育厅人権教育課の藤本真也教育調整監から指導助言がありました。

指導助言の概要

山口県教育厅人権教育課の藤本真也教育調整監から指導助言がありました。

第7分科会 健康・安全教育

**協議題 健康・安全課題の解決に主体的に対応できる子供の育成
提案案**

①愛媛県教育会 ②山口県教育会

指導助言 山口県教育庁学校安全・体育課 教育調整監 橋田 太郎 様

提案の要旨

①愛媛県教育会

今治市立富田小学校の鍋島理恵先生と同市立朝倉中学校の羽藤りえ先生が、主題「自他の命を守り、主体的に行動する児童生徒を育てるための防災・減災教育の在り方」について、(1)系統的な防災・減災教育の推進(2)防災教育に関する指導力を向上させるための教職員研修の推進(3)児童生徒相互、家庭・地域との連携を図った防災教育の推進の3点を研究の柱とした実践を発表されました。

教育に取り組んだこと

小中・家庭・地域が連携し、全学年が教科等横断的な視点で系統的に防災教育に取り組んだことで、防災に関する正しい知識・技能や、防災への関心や自らの生活に生かそうとする意欲についての児童生徒の肯定率が向上したという成果が見られました。

②山口県教育会

周南市立三丘小学校の荒木裕二校長先生が、主題「持続可能な防災学習をめざして」について、(1)さまざまな体験を通して課題を



提案の様子



グループ協議の様子

協議の概要

①「2本の提案について」②「研究協議の視点について」の2点で、活発な協議が行われました。

子供たちが体験を通して課題を見つけ、家庭や地域協育ネット等と連携しながら解決に向かい、全校、保護者、地域に提言するという「知る」「見る」「伝える」活動を充実させることで、より自分事として自分の命を守り未来を考える持続可能な防災学習となつたという成果が見られました。

①では、地域によって健康・安全に関わる課題は多様であり、避難訓練をとっても、さまざまな事象を想定していく必要性や、自助・共助の大



健康教育の推進に当たっては、本県の子供たちの体力や生活習慣・健康に関わる調査結果が芳しくない状況が続いていることから、小中一貫・地域連携教育といった山口県の強みを生かし、「学校体育通信」や「おうちで運動メニュー」などを活用し、家庭・地域と連携しながら体力向上を図っていくことが求められます。

指導助言の概要

山口県教育庁学校安全・体育課の橋田太郎教育調整監から指導助言がありました。

近年頻発する自然災害の増加、今日の子供を取り巻くさまざまな要因による体力の低下や生活習慣による健康問題など、健康・安全課題は学校だけでは解決が難しい事項です。健康・安全教育への取組については、学校の重点取組事項の一つとして推進していただきたいと考えています。

協議題 グローバル人材の育成をめざす外国語教育の推進

提 案

①長崎県教育会 ②山口県教育厅義務教育課 指導主事 山口県教育会

有田 ゆかり 様

提案の要旨

①長崎県教育会

佐世保市立広田小学校の前田優子先生が前任校の金比良小学校での実践を紹介されました。グローバル人材の育成には、異文化への理解が必要であるという視点から、近隣のアメリカンスクールとのさまざまな交流を進めてこられました。子供たちは新しい視点を獲得し、価値観の多様性に気づくことによって、お互いに認め合う心や相手の立場に立ったコミュニケーションを意識するようになりました。

②山口県教育会

山口市立大内中学校の津守陽子先生は小中連携と、「書くこと」の言語活動の工夫について紹介されました。小中連携ではCAN-DOLIST

トの作成と見直し、合同研修会の開催、学習内容のつながりを意識した言語活動を通じて、異校種間の相互理解が進みました。

「書くこと」の言語活動では、伝える相手を意識した活動や学



習形態の工夫により、生徒たちの苦手意識が軽減し、学習意欲が向上しました。

協議の概要

研究協議では、「中学校への円滑な接続を見据えた小学校外国語教育の在り方」、「ICT活用の工夫による効果的な外国語教育の在り方」の二点を中心に協議が行われました。

一つ目の視点に関しては、小中合同研修会を設けて情報共有する」とや、CAN-DOLISTを使って各学年終了時のゴールを中学校区単位で統一して示すことでの大切さについて話し合いました。

二つ目の視点に関しては、ICTを使うことで学習の幅を広げることができたという意見や、

ICTを使うことで学習の幅を広げるところまで意見や、

ICTを使うことで学習の幅を広げることで得られる効果を述べました。

全体を通して、小中連携において①情報交換②交流③連携したカリキュラムが大切であること、小中外国語の共通点と相違点を理解したうえで連携を推進していくことが大切だということを教えていただきました。

また、ICTの活用は、外國語の指導にとって有効なものであるが、まず教師がコミュニケーションの手段として英語を

使用する姿を見せることが大切だという

オンラインで方が身近にいる環境でも、ない環境でも、

オンラインでございました。

海外の人と交流することで、英語学習の意欲を向上させるという意見がありました。また、ICTを使う目的と意義を明確にして、デジタル教科書などのICTを効果的に使っていきたいという意見が出ました。

指導助言の概要

山口県教育厅義務教育課の有田ゆかり指導主事から、次のような指導助言がありました。



第9分科会 幼児教育

協議題 未来を豊かに生きる力の基礎を培う幼児教育の推進

提案

①東京都教育会 ②山口県教育会

指導助言 山口大学教育学部教職大学院 准教授 川崎 徳子 様

提案の要旨

①東京都教育会

墨田区立八広幼稚園の金澤里美園長先生が発表されました。八広幼稚園では、令和3年度より、「自ら遊びをつくり出し、遊び込む幼児の育成—豊かな経験につながる環境を探る」を研究テーマに、継続した研究を行っています。

「遊び込む姿」の実現に向けて、人・モノ・場・イメージの四つの要素の充実を図り、日々の振り返りを翌日の保育に生かせるよう取り組んでいます。振り返りの手立てとして、四つの要素を意識して日々の遊びを振り返ることができます。「読み取りシート」を活用しています。また、見通しをもち、計画的に保育が行えるよう、「遊び込む幼児を育てるための環境・援助のポイント」を一覧表にまとめ、活用しています。

「遊び込む姿」の四つの要素を日々振り返る取組は、幼児の思いに沿った環境設定や教師の援助の工夫の充実につながり、さまざまな場面で生き生きと主体的に遊び込む園児の姿が、見られるようになりました。

②山口県教育会

学校法人華陽学園えんしん幼稚園の樺千栄子園長先生が発表されました。えんしん幼稚園では、教育目標の実現に向けて「連携機関との協働で育むしなやかな幼稚園経営—重点行事の再確認、園内コーディネーター等の取組を通して—」を研究テーマに取組を進めていきます。

重点行事の再確認では、地域の伝統である塩浜太鼓

の発表や華陽中学校の生徒との交流など、地域とのつながりを大切にした活動を中心に取り組んでいます。

また、華陽会グループ4園のさらなる連携の充実に向けて、園内コーディネーター、主任部等が定期的に部会を開催し、4園の様子を互いに伝え合い、情

報共有しています。さらに、4園の共通課題の解決に向けて山口県乳幼児育ちと学び支援センターとも連携を図り、合同研修会を実施しています。関連機関との連携により、組織的な動きが円滑にできるようになり、保育の充実につながっています。

研究協議では、幼児期に育みたい資質・能力の育成について、そして幼保小の円滑な接続の在り方について協議を行いました。



指導助言の概要

山口大学教育学部教職大学院の川崎徳子先生から二つの提案について指導助言がありました。

八広幼稚園の取組では、豊かな体験とは何かを明らかにするため、子供の「遊び込む姿」に注視されています。その姿を記録するため、「読み取りシート」を活用し、見取りの窓口を四つ設定されています。これにより子供の世界がとらえやすくなり、日々の保育が充実する上、実態をとらえて次の実践につないでいくことができます。PDCAサイクルの好循環がみられる保育実践でした。

えんしん幼稚園の取組では、遊び中心の行事が年間を通じて豊富に仕組まれており、日常生活に潤いと温かみが出る活動になっていました。園内コーディネーターを配置することで、子供を丁寧に見ていくだけでなく、業務分担の調整にもつながっていました。さらに、研修や人事交流の幅も広がり、

華陽会グループ4園をはじめ、地域や中学校との有機的な連携が可能となっています。関係機関との連携の充実を図ることで研修の幅が広がり、教師の専門性の向上が図られるなど、日々の保育に還元されています。



第10分科会 学校・家庭・地域の連携

協議題 人づくりと地域づくりの好循環を創出する地域連携教育の推進

提案案 ①徳島県教育会 ②山口県教育会 ③山口大学教育学部教職大学院 教授 静屋 智様
指導助言 山口大学教育学部教職大学院 教授 静屋 智様

①徳島県教育会
 岐阜市瀬戸中学校の近藤太校長先生が、人口減少により、魅力ある学校づくりが喫緊の課題となつており、幼小中一貫教育や学校運営協議会の仕組みを生かしたPBL(総合的な学習の時間)や夢・心づくり塾などの取組により、自分の姿を生き生きと表現する生徒の姿が見られるようになつたと発表されました。



提

提案の様子

②山口県教育会
 宇部市立黒石小学校の原田健一郎校長先生と杉永美佐子地域コミュニケーション力という児童の課題と後継者不足という地域の課題を共に解決するため、「It's the Future」や「ゆめプラン 黒石」などの取組を行い、



提案の様子

児童の学習意欲が向上し、学校生活も落ち着いてきたことを発表されました。

③山口県教育会
 光市立浅江中学校の吉岡智昭校長先生と田村和民学校運営協議会会长が、これまで行われてきた「松林保全ボランティア」や「クリーン光大作戦」では教員的確な指示でめざす成果を上げてきただが、学校内外の環境変化から、地域と学校が果たすべき役割を見つめ直し、全校生徒が参加する形ではなく、本来的なボランティアへと切り替え、学校の果たす役割がより明確になつたことを発表されました。



協議の様子

協議の概要
 提案者から研究協議の三つの視点について意見が発表されました。その中で、ふるさとへの愛着の定義や担い手意識、小中9年間を2・3・4や4・3・2と見る校種間連携やこれからコミュニケーション・スクールの可能性について意見が発表されました。

その後の質疑応答では、香川県の川上先生から熱議と討議の違いについて質問があり、大きな差はないが多様な人が集ま

りそれぞれの立場から意見が出され、よりよいものを作り上げていくものと説明されました。また、富山県の中澤先生から学校運営協議会の成り立ちについて質問があり、それぞれの提案校からお答えがありました。

指導助言の概要

山口大学教育学部教職大学院の静屋智教授から指導助言をいただきました。



指導助言の様子

「地域とともにある学校」のキーワードは共有、確認、協働です。これから学校がめざす方向性はどうあるべきか、これからの地域がめざす方向性はどうあるべきか、また、なぜコミュニティ・スクールなのか、何のために、どのような成果をめざしているのか、これらを共有して取り組んでいく必要があるのです。これらのコミュニケーション・スクール経営で大切にしたいもの、育みたいものは「確かな地域愛」であると考えます。アンケートの結果、大人になつたら地域のために何かしたいと考えている子供は約6割、小中学校のために役立ちたいと考えている地域の方は約7割です。子供の育ちには連続性が重要であり、それを担保するのが学校運営協議会の役割であり、意義です。

青年教師の会 8月17日(木) 15:30 防長苑1階白鳳 交流会 17:30 防長苑2階孔雀

コーディネーター



左：山口市立川西中学校 校長 村瀬充俊 様
中：山口市立上郷小学校 校長 平野幸世 様

実践発表者



山陽小野田市立
高千帆小学校 教諭 光井理恵子

グループ協議



ワークショップ形式でグループ協議を行いました

模造紙に青と赤の付せんを



青の付せん：効果があると思われる点
赤の付せん：工夫が必要であると思われる点

グループ発表



模造紙を指しながら、全グループが発表しました

交流会



青年教師の会と同じグループで交流会を行い、親睦を深めました

理事会 8月17日(木) 15:30 セントコア山口 2階サファイア 出席者25名

日本連合教育会会长挨拶



徳島県教育会理事長
佐藤 利弘

大会実行委員長挨拶



山口県教育会会长
倉増 誠彦

大会概要説明



山口大会事務局長
山本 晃久

協議



山口大公
副会長 貝ノ瀬 滋

第75回研究大会予告



愛媛県教育会
理事長 藤原 雅彦

第75回日本連合教育会研究大会愛媛大会は、令和6年7月25日～26日に、愛媛文教会館を拠点として、参考とリモートによるハイブリッド形式で開催します。記念講演やアトラクションは、令和6年度「えひめ教育の日」推進大会・フェスティバルとの合同開催とします。



レセプション 8月17日(木) 17:30 セントコア山口 2階サファイア 出席者48名

来賓祝辞



山口県教育委員会
教育長 繁吉 健志様

乾杯



山口市教育委員会
教育長 藤本 孝治様



【進行】
山口大会
監事 内田 重美



閉会の言葉



山口大会副実行委員長
中村 哲夫

第74回日本連合教育会研究大会山口大会 アンケート集計結果 アンケート回収率 66.5%

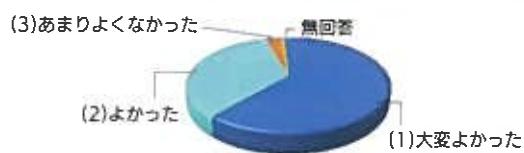
1 どちらからいらっしゃいましたか。所属はどちらですか。

県内	59.4%
県外	40.6%
幼稚園・こども園・保育園	4.9%
小学校	50.6%
中学校	32.0%
その他	12.5%



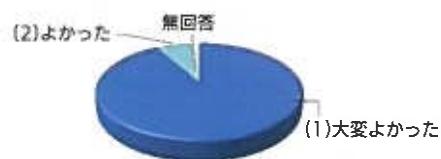
2 開会式、全体会（時間配分、内容）はどうでしたか。

(1) 大変よかったです	61.3%
(2) よかったです	34.2%
(3) あまりよくなかったです	2.8%
(4) よくなかったです	0.8%
無回答	0.9%
計	100.0%



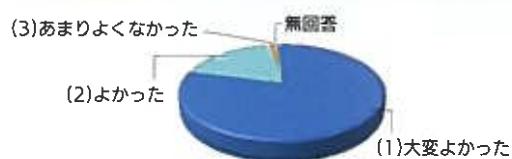
3 記念講演はどうでしたか

(1) 大変よかったです	91.7%
(2) よかったです	6.8%
(3) あまりよくなかったです	0.4%
(4) よくなかったです	0.0%
無回答	1.1%
計	100.0%



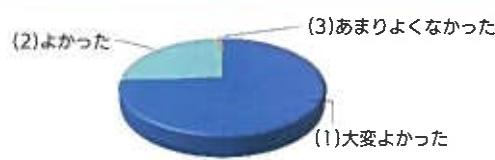
4 アトラクションはどうでしたか

(1) 大変よかったです	78.9%
(2) よかったです	18.7%
(3) あまりよくなかったです	0.9%
(4) よくなかったです	0.4%
無回答	1.1%
計	100.0%



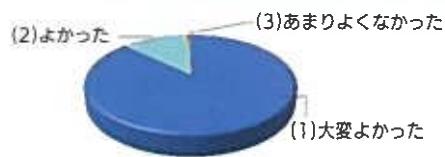
5 1～10分科会（進行、時間配分）はどうでしたか。

(1) 大変よかったです	74.1%
(2) よかったです	24.7%
(3) あまりよくなかったです	0.8%
(4) よくなかったです	0.2%
無回答	0.2%
計	100.0%



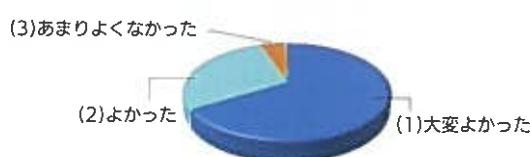
6 「青年教師の会」はどうでしたか。（参加された方のみお答えください）

(1) 大変よかったです	87.0%
(2) よかったです	12.1%
(3) あまりよくなかったです	0.9%
(4) よくなかったです	0.0%
無回答	0.0%
計	100.0%



7 全体会、分科会の会場はどうでしたか。

(1) 大変よかったです	66.2%
(2) よかったです	28.7%
(3) あまりよくなかったです	4.5%
(4) よくなかったです	0.4%
無回答	0.2%
計	100.0%



自由記述より

※「△」印は検討事項

開会式、全体会について

- 滞りなくスムーズに運営されていた。
- 紙面による来賓の紹介など省略できるところは省略されていた。
- △ 開会式の祝辞等の人数を減らして時間短縮をするとよい。

記念講演について

- 生きる勇気をいただいた。支える人の素晴らしさを感じさせてもらった。
- 子供たちにチャレンジすることの大切さを感じさせる教育を進めたいと思った。
- 努力の素晴らしさを教えていただいた。応援したくなった。元気をもらった。
- 道下さん自身と周囲で支えている「チーム道下」の連携は学校にも通じると思う。
- 今回の講演を小中高の生徒にもぜひ聞かせたい。
- △ もっと話を聞きたかった。質問コーナーがあるとよかった。

アトラクションについて

- 心が熱くなった。心が洗われた。心に響いた。
- 子供から年長者まで出演していて素晴らしいミュージカルだと思った。
- 幕末の志士の熱き思いが現代に繋がっていることや逆に応援されていることを強く感じた。
- エネルギッシュな演技で楽しませていただいた。機会があれば全編を観劇したいと思った。
- △ アトラクションに代えて全体に係る指導講話が聞きたかった。

分科会について

- 提案発表の質が高かった。また、指導もわかりやすかった。
- 異校種や他県の先生と協議することができよい時間になった。
- 県内外、各校種の参加者がバランスよくグループ分けしてあった。
- 参考になる実践の情報を多くいただき有意義だった。勤務校でも実践してみたい。
- △ 時間がもう少し長かったほうがよいと感じた。
- △ 全体会会場から分科会会場が遠かった。
- △ 分科会の会場が狭く隣のグループの声で聞こえづらかった。
- △ スクリーンが遠く小さく見えにくかったので資料を配付してもらえると有り難かった。

青年教師の会について

- 具体的な実践例を聞くことができ大変参考になった。今後の授業実践に生かしたい。
- 色々な県の色々な校種の先生方と話ができる有意義な時間を過ごせた。
- 自分の授業も生徒のモチベーションが高まるように頑張りたい。
- △ 新幹線が遅れたため会場への到着が遅れた。受付時間を延ばしてほしかった。

その他

- 素晴らしい大会だった。準備や運営に携わったスタッフに感謝する。
- 大会誌がカラーできれいに印刷編集されておりとても使いやすい仕上がりだった。
- 対面で実施できたことがよかった。グループ協議の時間以外での雑談も情報収集に役立った。
- 改めて勤務校の課題をふり返り具体的なアクションを起こさなければならないという意識がもてた。
- 弁当がおいしかった。山口の特産物の弁当を楽しめた。
- △ ミドル世代の参加が少ないように感じた。
- △ 指定された駐車場に駐車できず受付時間ぎりぎりに到着した。

次年度開催地挨拶・大会を振り返って



次期開催地挨拶

愛媛県教育会

愛媛大会実行委員長 藤原 雅彦
(愛媛県教育会 理事長)



山口大会でのご挨拶の様子

次期開催県を代表しまして、ひと
言ご挨拶を申し上げます。

第74回研究大会山口大会は、従来
通りの参集型の開催となりました。
多くの皆さんのご参加のもと、盛大
に開催されますことを心よりお喜び
申し上げます。また、本研究大会の
開催にあたり、山口県教育会の皆様
が力を結集され本日を迎えていたこと、
ご苦労は大変だったことと思います。

さて、第75回研究大会は愛媛県教
育会が担当させていただきます。愛
媛県松山市におきまして、令和6年
7月25日、26日の両日開催いたします。
愛媛教育の日推進大会・推進フェスティ
バルとタイアップしての開催です。
来年の愛媛大会では、大会主題を
「共助のころで しなやかに生きる
日本人の育成」と設定し、主題をも
とに7つの分科会において教育実践の在
り方を研究協議していただく予定です。
愛媛大会では、基本的にオンライン参
加とし、一部参集による参加というハ
イブリッジ開催とさせてもらいます。
愛媛県は、正岡子規、秋山好古・
真之兄弟らの生まれ育った土地です。
明治維新後の近代化に向けた激動の
時代に、逆境の中、志を立て前を向
いて歩み続けた彼らのように、来年の
大会にむけ、ひたむきに頑張っていき
たいと考えております。

(正岡子規)



4年ぶりに通常開催、日連教山口大会

山口県教育会

山口大会副実行委員長 中村 哲夫
(山口県教育会 副会長)

令和2年から世界中で猛威をふるつ
た新型コロナウイルス感染症も対
応が緩和され、山口大会も久しづび
の通常開催が可能となりました。約
800人の方の参加を得、ここ山口
の地で教育に対する思いを一つにす
ることができました。

令和4年から「人間性豊かに生きる」
をテーマに活動を続けている山口
県教育会は、今大会の主
題を「時代
の変化を前
向きに捉え
志高く人
間性豊かに
未来を創造
する日本人
の育成」と
しました。

分科会でも
このテーマ
を踏まえ議
論しました。
大きいに盛り
上がった分
科会でした。



リンピック女子マラソン金メダリストの道下美里さんに「チームでつかんだ金メダル」と題して素晴らしい
体験を表情豊かに紹介していただき
ました。

さらにアトラクションは創作
ミュージカル「SHOW IN」若き
志士たち。松陰先生の熱き思
いを参加者の心に響かせ
ていただき
ました。

このよう
に想いの伝
わる対面開
催だからこ
その素晴ら
しい山口大
会であつた
のではない
でしょうか。
成果を上
げて終了し
た山口大会。
私たち山口
県教育会は
これを礎に
さらに発展
していかな
ければなり
ません。

終わりに、来年の夏には各教育会
の素敵な研究成果を聞けることを楽
しみしています。

「君来ばと西瓜抱えて待つ夜かな」
(正岡子規)